

造影検査 説明書

造影 MRI 検査を受けられる方へ

●検査説明

MRI 検査は、寝台に寝ていただき磁場とコンピューターを使用して、体内の深部を観察する検査です。今回実施する MRI 検査は造影剤(ガドリニウム系造影剤)という薬を注射して行う予定です。血管内に造影剤を投与して臓器や病変部をわかりやすくすることによって、あなたの病気の状態をより正確に評価し、今後の治療に役立てます。造影剤を使用しなくても検査は可能ですが、病気の有無やその性質、範囲などをより詳しく、正確な診断を行うためには多くの場合、造影剤が必要です。また、場合によっては経口用の造影剤をお飲みいただく場合もあります。

●造影剤を使用するにあたり

造影剤は副作用の少ないものが開発され安全な薬ですが、まれに副作用が起こることがあります。以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強くなる場合もあり造影検査を使わないことがありますので、必ず「MR 造影検査 問診票・同意書」の記入をお願いします。

***今までに造影剤によって具合が悪くなったことがある方**
***気管支喘息などのアレルギー歴のある方**
***他の薬剤過敏症やじん麻疹などのアレルギー歴のある方**
***重篤な腎障害のある方**

● 造影 MRI 検査に伴う危険性とその発生率

*軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭(のど)違和感、動悸、頭痛、発疹などです。これらは治療を要さないか、簡単な処置により回復します。このような副作用の起こる頻度は約1%程度です。

*重篤な副作用

呼吸困難、喘息発作、ショック、けいれん、意識障害、血圧低下、腎不全などです。このような副作用は、入院の上での治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があり、その頻度は0.02%程度とされています。病状・体質によっては様々な処置を行っても死亡することがあり、その頻度は約100万人に1人であるという報告があります。

*造影剤注入時

造影剤を注入する際、検査の部位によっては造影剤を高速で注入する為に、稀に血管外に造影剤が漏れる場合があります。この場合、注射部位が腫れて痛みを伴うことがあります。基本的には時間が経てば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が多い場合には、非常に稀ですが特別な処置が必要となる場合があります。

*過去に、造影剤を用いた検査で具合が悪くなったことがある方、喘息・アレルギー体質の方、心臓、腎臓に病気のある方は、副作用が強く出現する場合がありますので、主治医にその旨お申し出ください。また、当院では造影検査中、常に患者の状態を観察しており何か異常が現れた場合には直ちに造影剤投与を中止し、医師、看護師が適切な処置をいたします。もし、異常だと感じたらすぐにお伝えください。

*重篤な腎機能障害のある方にガドリニウム系造影剤を使用した際に、腎性全身性線維症(皮膚の硬化を主体とした多臓器線維化疾患)の発症が報告されています(世界でも数十例)。現時点では、造影剤との因果関係、機序は不明ですが、腎性全身性線維症は治療法が確立されておらず、また死に至る可能性もあり、重篤な腎機能障害を有する方には原則造影剤使用を禁忌とさせていただきます。

その他、検査について不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。

受付時間： 月～金(8:30～17:15)、 土曜日(8:30～12:30)

〒710-0826 倉敷市老松町4丁目3-38

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院 ☎086-427-1111

放射線部受付(直通) ☎086-427-1194